



▲総務企画委員会の調査で、日本原子力研究開発機構東海研究センター内に、平成20年12月の供用開始を目指して建設中の大強度陽子加速器（J-PARC・ジェイパーク）を視察しました。加速器で発生させた中性子などを利用して、今まで見えなかった原子や分子の世界を見る大きな顕微鏡のようなものです。難病治療の新薬開発や新材料をつくる研究・農業への応用などを目指します。世界で2箇所目となるこの全体の整備費は1524億円、世界中から研究者が訪れる見込みです。県でも22億円で2本のビームライン（写真後方）を整備し、産業振興に活かそうとしています。（20年4月）

県立中央病院は、引き続き 産科・小児科の再開に努力！！ — あり方検討会が検討結果を報告 —

県立中央病院の運営とあり方についての検討会（議長：山口巖前筑波大学附属病院院長）は、本年5月末に最終報告書を県に提出しました。メンバーは、地元の石本誠笠間市医師会長など8名です。

検討結果によれば、同病院に期待される役割として、①専門医の連携による高度総合診療の充実 ②がん診療連携拠点病院としての機能充実 ③救急医療の充実 ④心疾患・脳卒中に対する診療体制の充実 ⑤産科・小児科の診療機能の再開 ⑥医療人材の育成・確保などを挙げております。また、担うべき役割として、地域における医療連携の充実、診療情報の発信基地としての機能、感染症対策、へき地保健医療への対応、災害に対する医療、緊急被

ばく医療などを挙げております。多岐にわたる役割と期待の大きさが示されました。

この報告を受けて、古田病院事業管理者は、県議会において、「県立の唯一の総合病院として、診療面だけでなく教育研修施設という観点からも、産科・小児科の再開は重要と考えている。再会に向けて引き続き努力する」と述べました。

常井議員は、産科・小児科の再開と小児救急医療への対応を求めてきましたが、これからも粘り強く早期実現を主張してまいります。



一緒に創ろう!

平成20年第2回定例県議会を終えて

ふるさとへの輝く新時代

平成20年第2回定例県議会は、6月5日から18日までの14日間開かれ、条例など17議案を可決しました。常井議員は、総務企画委員会では副委員長として活躍し、財政再建等調査特別委員会では、活発な質疑と質問を行いました。

なお、平成20年第3回定例会は、9月3日から26日までの24日間の日程で開催される予定です。

可決された条例などから

茨城県産業活動の活性化及び雇用機会の創出のための県税の特別措置に関する条例の一部改正

企業誘致促進のために県税（法人事業税・不動産取得税の2税）を課税免除してきた優遇策を見直した。

◎見直しのポイント

- ①対象業種を製造業、運輸業、卸売業などに絞った。従来の課税免除の対象事業から、小売業、サービス業などを除外した。（中心市街地などへの大規模小売店舗は、例外的に対象とした。）
- ②課税免除の要件である「5人以上の従業員の増加」の「従業員」を「正規雇用者」に限定した。

◎改正の効果

- ①15年度から19年度の課税免除の実績合計は、延べ1,833法人で、約135億円。今回の改正を当てはめれば、法人数で53%、免除額で33%が適用外になる。
- ②小売業など、県内の既設店舗との公平性が確保できる。
- ③財政再建下の県の税収増が見込める。県と同調して課税

免除してきた市町村でも固定資産税の増収が見込める。
④県が、「正規雇用」を推進していく意思と方向を明確にできた。

※ 常井議員は、この観点から、質問を通して条例改正を主張してきました。それがきっかけとなって、今回の改正が実現されました。

主な意見書

地方自治法99条の規定に基づき、国に対し意見書を提出しました。ほとんどは最大会派の自民党が発案しています。

- ①長寿医療制度（後期高齢者医療制度）の改善を求める意見書
 - ・国民に制度の意義の周知の徹底と不安払拭のための改善努力をすること。
 - ・低所得者の負担軽減などにより一層配慮すること。
 - ・制度導入後の状況を検証して改善すべき問題点に必要な措置を早急に講じること。
- ※ 自民党議員会から各市町村議会に対し、同趣旨の意見書提出を要請しました。笠間市議会も同旨の意見書を提出しました。
- ②米の需要拡大に関する意見書
- ③正規雇用の推進と労働者派遣制度の改善に関する意見書
- ④安心して医療を受けられる体制を整備するため、必要な医師・看護師の確保に関する意見書

着実に進む笠間市内の道路・河川整備

常井議員は、毎年水戸土木事務所との勉強会を開催して、地元の要望をしています。本年の勉強会（H20.6.19）で実施方向が明らかになったものの中から一部をお知らせします。

- 1. 都市計画道路宿大沢線の早期開通（残り640m）…用地買収は、ほぼ終了。22年の早い時期に開通を目指す。（友部小の側を通る環状道路）
- 2. 合併支援道路の宍戸小～大沢跨線橋（900m）…笠間市事業で20年度も用地買収。（旧畜産試験場内は県事業で現道拡幅。詳細設計済）
- 3. 友部駅北口付近の県道杉崎友部線拡幅整備（南友部地区内）…踏切方面への用地買収20年度に決定、工事着手予定。
- 4. 県道大洗友部線、(旧名) 総合流通センター～茨城中央工業団地の開通…20年度に橋梁上部工、21年度開通予定。

- 5. 県道友部内原線（中央病院前通り）の内原カントリー前～岩間街道までの拡幅…20年度は、用地費で1000万円計上。
- 6. 住吉区地内「本田木材店」前岩間街道との交差点のすみ切り…20年度に工事を実施。同交差点道路標識に、



▲水戸土木事務所との勉強会。常井議員の左隣は須藤修一所長、右は浅見次長。(20年6月)

友部スマートIC明記を要望済み。

- 7. 国道355号石岡岩間バイパスの早期開通…八郷地区の跨線橋は、20年度完成

予定。取り付け口の用地取得で残る1件が難航、開通見込み立たず。交渉を継続。

8. 県道上吉影岩間線、桐山～大笹の拡幅改良…20年度も約100m実施予定。
9. 県道水戸岩間線（岩間街道）土師十字路付近の改良関連、桜川の桜井橋への側道橋（歩道）の設置…**20年度完成予定**。歩道南側への延長は、用地交渉中。
10. 国道355号笠間バイパスの整備促進…20年度石井橋の上部工実施と南側へ300m区間の用地買収。
11. 澗沼川の河川内・堤防の竹木の伐採、草刈り…湯崎・住吉・仁古田・下押辺・安居地区で、順次実施。
12. 河床しゅんせつと堤防崩壊箇所の改修…澗沼前川（小原・市原地区）、随光寺川・桜川（上郷・下郷地区）で、状況を見ながら実施。
13. 本戸地区南指原川のたい積土砂の除去…19年度は、380m実施済み。20年度も同程度を継続して実施。

県立中央病院 — 人工透析センター等の整備開始

同病院の診療機能強化に向けた施設整備が始まりました。

- ・人工透析センター（20床）…20年12月稼働予定
 - ・5月から自治医大より担当医師を迎え、準備に入っている。
 - ・地震被災の際の※クラッシュ症候群にも対応できるようにする。
- ・化学療法センター（20床）…20年12月稼働予定
- ・放射線治療センター…21年4月稼働予定
 - ・リニアック（1台約4億円）を1台増設し、診療待ちを解消する。

※ がれきの下敷きになるなど、筋肉が長時間圧迫されて壊死することで起こる全身の障害。

県立友部病院改築 — 木造建築棟の実現を求める

常井議員は、平成23年の開院を目指して、全面改築の基本設計中の同病院に、県産材を全面的に使用した木造建築物を別棟で造ることを提唱しています。実現に向けて、孤軍奮闘中です。提案の理由は次のとおりです。皆さんの応援をお願いします。

- ①20年度から本県が森林湖沼環境税（個人で年額1千円）を創設して、森林の間伐を強化した。県産材の利用を県民に呼びかけるためにも、県は県有施設で率先して使用するべきである。
- ②木造建築物を造ることによって、大工などの技術が継承されるとともに、地元の職工さんが工事に参加できる。
- ③木造棟は、患者や医師らに癒しの空間となる。
- ④市民交流センターとして、筑波海軍航空隊の遺品や資料を常設展示するスペースを設けたい。

畜産試験場跡地周辺の地域計画の策定を求める

（常井洋治記）

同跡地の具体的な利活用策は、未だ決定に至っておりません。しかしながら、隣接する友部病院の全面改築、県道・市道の整備計画が予定されていますが、それぞれ事業主体が異なるため、一体的な整合性に欠けている状態です。そ

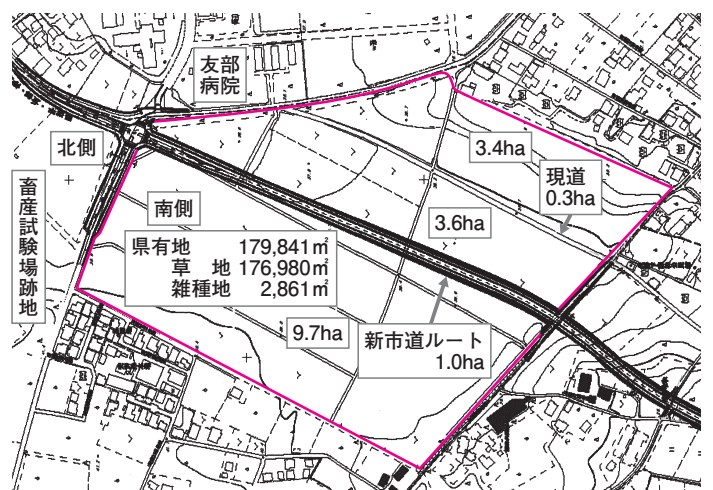
こで、私は、県の企画部・土木部（営繕課を含む）・農林水産部・総務部・病院局・水戸土木事務所と笠間市がプロジェクトチームを結成して、体系的な地域計画を検討することを求めています。主な、視点は、次のとおりです。

- ①友部IC～畜試跡地～友部スマートIC（ETC）の道路計画をどう立てるのか。
 - ・友部病院新館の進入口や建設位置にも関係する。
 - ・（旧名）総合流通センターに進出するイオンへのアクセス道路として機能させるのか。
- ②大古山新橋から同跡地を通る市道1級12号線の跡地内ルートの再検討が必要ではないか。
 - ・新市道ルートは、同跡地の南側約18haのほぼまん中を14m道路で分断することになる。将来的に大規模な施設を誘致する場合には、一団の広い土地が必要だが、使い勝手が悪くなってしまわないか。県民共有の財産として有効な活用を考えるべきだ。
 - ・跡地内の市道の現道拡幅案も踏まえ、新ルートの道路が本当に必要なか慎重な検討を要する。
 - ・最終ルートの決定によって、友部病院前の交差点の造り方も決まってくる。

※ 私は、上記②の新市道ルートについて、県が18年3月に策定した「畜産試験場跡地利活用調査報告（第1次報告書）」にも位置づけられていなかったため、ルートを示す赤白のポールが現地に立った時点で初めて知りました。その後県が、17年12月に既に承認していたことが判明しました。つまり、県企画部などは、上記調査報告の検討中にルートを承認していたにも拘わらず、そのことを県議会に報告もせず、上記報告書にも明らかにしなかったのです。行政側の独断で物事を進めるやり方に怖さを感じました。

その後、私は総務企画委員会で、再三にわたってその見直しを求めてまいりました。同跡地の有効活用はもとより、道路特定財源が話題になったばかりの中で道路の必要性や造り方の根元に関わる問題だと思っています。情報公開と県民や住民の意見聴取が重要です。

慎重な再検討と大局的な観点からの地域計画の策定を求めるものです。



財政再建等調査特別委員会

(H20.6.17) (要旨)

常井委員

①茨城中央工業団地笠間地区にイオン進出が決定したが、その後の動きはどうなっているのか。

②81億7000万円という価額で決まったが、5カ月が経っても県に一銭も入金になっていない。県財政が大変なので、背に腹替えられないということで大型商業施設でもやむを得ないとした経緯がある。いまの時点で、民間の内金のような入金をきちっとできないのか。

③いまの公募のやり方を変えて、県に1日でも早く金が入るようにすべきだ。

横山事業推進課長

①イオンは、公募で優先交渉権を得た。土地の粗々の利用計画を6月中を努力目標に内部決裁中で、それが済めば県との協定書の締結になる。

②今回の公募の条件がオーダーメイド方式のため、イオンの土地利用計画を受けて県が造成設計をし、費用が固まった段階で、早ければ今年度内に土地譲渡契約となる。その中に契約保証金の条項が入る。

③今後は、公募のやり方も県にとってスムーズなやり方を検討していきたい。

※1. イオン側から地元の8区長への事業構想説明が、3月19日に開催されました。県・市の関係者とともに常井議員もオブザーバーとして出席しました。当日、区長さん方から、交通渋滞と安全確保対策、枝折川の河川改修、禁猟区設定などの要望がありました。常井議員は、それら要望の実現に努めてまいります。

※2. 6月25日の県議会土木委員会の調査で、常井議員は、「イオン進出で相当な交通混雑が予想され、地元住民から不安の声があることから、ETC専用の友部スマートICの改修や付け替えを検討すべきではないか」と質問しました。これに対し、須藤水戸土木事務所長は、「今のままでは、高速道路本線まで渋滞の影響が生じるおそれがあるので、本庁道路建設課と協議していく」と答弁しました。



写真で見るとこい洋治活動記録



▲常井議員は、笠間青果市場の皆さんと朝霞駐屯地内にある自衛隊体育学校を訪問した。同校の鈴木義長(よしおさ)校長(上の写真)は、笠間市本戸(もとど)の出身で、一行を歓迎してくれた。同校長の階級は、陸将補で、外国軍人呼称(旧軍)では、少将。同校では、北京オリンピックに6人の代表選手を送り込む。(20年5月)



涸沼川にかかる大古山新橋が完成した。開通式典には、地元の皆さんが大勢駆けつけてくれて一緒に渡り初めをして、喜びを分かち合った。岩間支所と友部駅を結ぶ市の幹線道路の整備が進む。(20年5月)



▲笠間市地域女性団体連絡会(川連キ又会長さん)の総会で「茨城婦人の歌」を歌う会員の皆さん。(20年4月)



▲自民党議員会では、水戸地方検察庁の勝丸充啓検事正を講師に招いて、21年5月21日から始まる裁判員制度の研修会を開催した。(20年5月)



▲笠間ブロック明るい社会づくりの会では、同会の海藤清治会長さんによる、笠間市出身のイコン画家であった「山下りんの生涯」の講演会を開催した。常井議員も、興味深く拝聴した。(20年5月)



▲現在の友部病院の敷地にあった旧筑波海軍航空隊の慰霊祭が執り行われた。常井議員は、代表献花をした。同航空隊は神風特別攻撃隊筑波隊を編成し、沖繩戦だけでも55柱が散華した。常井議員は、同病院の全面改築に当たって、史跡の保存を通してその歴史を後世に伝えたいと行動している。主催者あいさつをする長谷川久良太会長さん。(20年6月)